



西予市長 管家 一夫



【データ】
 ※平成31年4月1日現在

- ・人口：37,688人
- ・世帯数：17,968世帯
- ・面積：514.79km²
- ・市の花・木：れんげ・ブナ
- ・特産物：米・ブドウ・みかん
 椎茸・栗・ハーブ媛ヒラメ
 奥地アジ
- ・イベント：れんげまつり

●西予市の紹介

(担当部署) 生活福祉部健康づくり推進課 (TEL) 0894-62-6407 (FAX) 0894-62-6564

西予市は、愛媛県の南西部・南予地方の中心に位置しており、県都松山市から車で約1時間の距離にあることから、南予の広域交流拠点としての位置づけが高まっています。

また、海拔0mから1,400mの標高差に存在する多様な自然、文化、大地の恵みなどに代表される地域の宝物を市民みんなで発見し、磨き、情報発信を行う取り組みを進めた結果、四国西予ジオパークに認定されました。

ジオパークは「大地の公園」とも呼ばれ、「見る」「食べる」「学ぶ」ことを感じるジオツアーでは、ジオガイドの説明を受けながら楽しむことができます。市民と一緒にまちの元気づくりを進めています。

●西予市における平成30年7月豪雨による被害と復興経過について

地域をあげて健康づくりに取り組んできた本市ですが、昨夏の7月豪雨は本市発足後、最大級の災害となり、市内各地で甚大な被害を受けました。

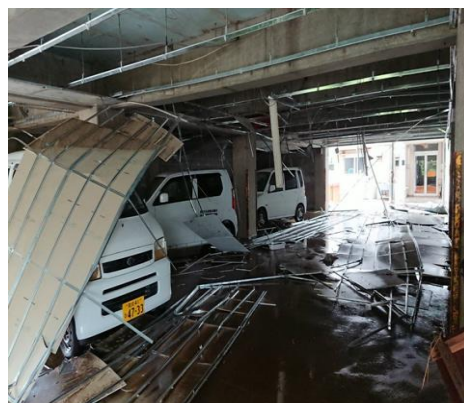
その復興の経過においては、発災直後より全国各地から物心両面にわたって支援を受け感謝をしております。



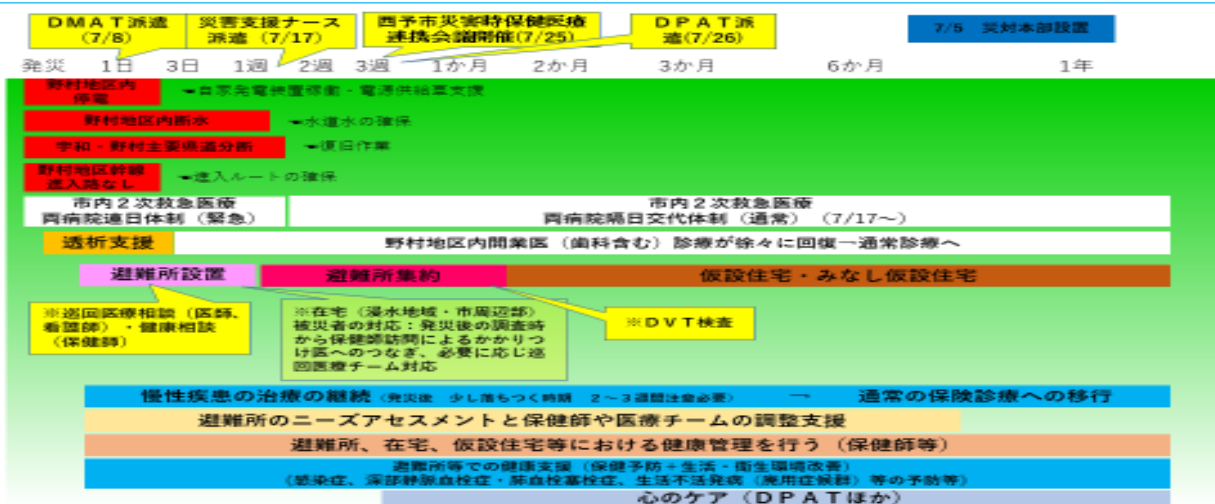
【西予市の災害状況】

7月5日～8日までに降り続いた雨は、最大24時間降水量347mmという本市観測史上1位を記録し、最大6,437世帯13,813人の避難指示を出しましたが、6名の尊い命を失いました。

河川の氾濫、土砂災害により道路が寸断され、孤立した集落もあり、電気・電話・水道のライフラインも絶たれました。また高齢者支援拠点である西予市地域包括支援センターのある、野村保健福祉センターも水害にあい、さらに支援困難な状況となりました。



【平成 30 年 7 月豪雨災害時における保健医療活動の経時変化】



フェーズごとに変わるニーズへの対応、二次健康被害の予防、避難所、自宅避難者の健康調査、心のケア、受援調整、ボランティアとの調整、福祉相談、要介護者、要支援者のフォロー等を進めていきました。

【歯科保健活動】

西予市歯科衛生士・県歯科医師会による避難所における歯科保健支援を実施しました。

【栄養食生活活動】

7/20～8/20の1箇月間、学校給食調理場を使い被災された方々に食事を提供しました。

献立作成は、市栄養士、献立修正・発注・調理指導を学校栄養士、調理運搬を学校給食調理員、調理員のシフト、連絡調整をセンター長、配膳・片付けを災害ボランティアとし、連携して実施しました。

また、食生活改善推進協議会の会員による避難所への炊き出しを行い、地元の夏祭りでも人気の「トンちゃんカレー」は、避難所の皆さんにも大変喜ばれました。

【復興の基本理念】

初めての経験である災害復興の道は大変困難で、問題も多岐にわたりましたが、発災初日から、切れ目ない包括的な支援を心がけて活動してきました。健康都市として、取り組んできた地域や多職種連携の活動が支援活動にも生かされていると感じています。

平成 31 年 3 月に「西予市復興まちづくり計画」を策定し、その基本理念に「寄り添い支えあう」「1 人の 100 歩より 100 人の一歩」「何ができるか考える」ことを謳いました。これから復興まちづくりに向けて、健康づくりの分野もその理念にそって活動していきます。また、今回の災害で得た教訓をもとに災害支援体制の見直しも行っていきます。

